

# 文化資本を重視する日本の高学歴外国人労働市場

## —関西における国際労働市場の事例から—

ヘルシンキ大学大学院 ハッカライネン・ニーナ

### 1 目的

この報告の目的は、日本での就職経験を持つ高学歴外国人の職業キャリアにおける文化資本の役割を分析することによって、日本の国際労働市場の特徴に注目することである。

### 2 方法

そこで、データとして、2009年から2013年にかけて、関西を中心に実施したインタビュー調査で取得されたものを用いる。調査対象者は、日本での勤務経験のある高学歴外国人80名である。主な現職は、総合職、専門職（技術職など）、大学教員、語学教師であり、主な出身地域は、東アジアと北米、ヨーロッパである。対象者は、スノーボール・サンプリングによって集められ、質問は、来日動機、母国および日本での学歴、職歴、ソーシャル・ネットワーク、今後の職業キャリアの予測に関するものである。

### 3 結果

分析の結果、出身地域にかかわらず、多くの高学歴外国人の来日動機は、「留学してみたい」、「海外で働いてみたい」、「異文化を経験したい」、「視野を広げたい」というような直接スキル取得に関係のないものであった。調査対象者の多くは、大学卒業資格と言語能力（母語、また母語と日本語能力）を条件として採用されている。言語能力以外のスキルで採用された技術者などの専門職を見ると、その日本語能力に対する要求はより低かったものの、ほとんどの場合採用条件には含まれていた。母語、日本語能力を重視する採用を経験した欧米出身者は日本での就職経験を帰国後も活かせる可能性に関して悲観的だったが、アジア出身者は、留学経験、日本での就職経験、また日本語能力を帰国後活かせる可能性に関して楽観的であった。

### 4 結論

本調査によると、多くの高学歴外国人が日本を選んだ理由は、日本が留学、また就職しやすい国であったからであり、彼らが手に入れたかったのは、日本に限らず、留学、海外経験による身体化された形態の文化資本であった。一方、日本での採用条件には、制度化された形態の文化資本（大学卒業資格）と身体化された形態の文化資本（言語の使い方、ふるまい方など）の両方が含まれており、語学教師の場合は、母国で取得した文化資本が重視されるが、その他の職業のほとんどでは、日本的文化資本が重視されている。この日本的文化資本に対する要求は、専門職の場合には、若干弱まったが、完全にはなくなっていない。また、帰国後の就職の可能性は、日本で取得した文化資本に対する母国での評価によって異なっていた。日本における高学歴外国人の国際労働市場で専門性のあるスキルより、文化資本、特に日本的文化資本が重視される。この傾向は、内部労働市場型、つまり総合職的採用パターンの影響により強くなっていると考えられる。多様な外国人高度人材を確保したいのであれば、日本的文化資本に対する要求を下げる必要がある。

### 文献

Liu-Farrer, Gracia, 2011, *Labour Migration from China to Japan*, London: Routledge.

塚崎裕子, 2008, 『外国人専門職・技術職の問題』明石書店。